

一人ひとりに
寄り添う政治を。32
歳

無所属

世田谷区議会議員選挙候補者
衆議院議員（元厚生労働大臣）
長妻昭 元秘書

世田谷から未来を変える

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる「一人ひとりに寄り添う政治」の実現を目指して、つみけんごは活動を続けます。

つみけんご
鶴見健悟プロフィール

- 1986年（昭和61年）10月12日生まれ 32歳
- 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科卒
- JA東京中央会 元職員
- 衆議院議員 長妻昭 元秘書
- 公務員試験専門 喜治塾 元講師
現在、世田谷区で政治活動中。

世田谷区議会議員選挙

投票日

4月21日 日

期日前投票

4月15日 月 ~ 4月20日 土
午前8:30 ~ 午後8:00

つるみけんご日々の活動

2015世田谷区議会議員選挙。
自転車で区内を駆け回りました。地元のもちつきに参加。
町会や消防団の一員としても
地域で活動しています！駅前活動。日々皆様からの
ご意見を頂く大切な場です。

つるみけんごは“認知症サポーター”です！

ご自身が、あるいは、ご家族が認知症になっても暮らしやすい世田谷を目指します。また、認知症予防・介護予防、さらに予防医療の充実の必要性を訴えて参ります。

つるみけんごの志 ~世田谷区議会議員選挙への再挑戦~

14歳の時、父が他界し、幼いながらに命の尊さを知りました。その頃から、自分自身の人生をどう生きるべきか、自問自答を繰り返し、「一人でも多くの人の笑顔と幸せのために自分に何か出来ることはないか」と考え、全ての人の生活の根幹に携わることの出来る「政治の道」を志すことを決意しました。

しかしながら、今の政治は票をまとめられる大きな組織や多額の献金を行うことが出来る団体にばかり目が向いてしまい、私達一人ひとりの声に耳を傾けようとはしません。

このままでは私達の生活を支えるはずの政治は、一部の権力者のものになってしまいます。

私は、子育て中の方や働く世代の方、高齢者や子ども達、障がいを持つ方やLGBTの方など、もっと一人ひとりの声に耳を傾け、生活や地域や街を作っていくことこそ政治のあるべき姿だと考えます。

2015年4月「しがらみのない立場で本当に困っている人の声を受け止められる政治に」との想いで、世田谷区議会議員選挙に初挑戦しました。

“無所属・新人”として特定の団体や企業などの支援は一切受けず、一人ひとりの方との会話を重ね、結果として2,787人

もの方々にご投票頂きました。私の力不足で落選という結果ではありましたが、その時に皆様にご頂いたご支援は一生忘れません。

それと同時に、私のような、地盤・看板・カバン（組織力、知名度、資金）を持たない普通の人間が政治を志すには、非常に高い壁があることを実感しました。

落選からの3年間は民間企業に勤務してきましたが、やはり今の政治の現状を変える挑戦を続けたいという想いが強く、このたび世田谷区議会議員選挙に再挑戦することを決意しました。

これまでのような一部の権力者や政治家のための政治ではなく、これからは「子ども達の未来と全ての人に生きがいのある社会」をつくるためにも、私達「一人ひとりの声を受け止められる政治」にしていかなければなりません。

つるみけんごは、自身が育ってきた「大好きな世田谷」の街で、その想いを形に変えるべく挑戦を続けて参ります。

政党や特定の企業・団体の支援を受けずに活動をしている私にとって、皆様お一人おひとりの方の応援が唯一の力の源です。どうか、つるみけんごの活動をお支援頂きますようお願い申し上げます。

つるみけんごの想い



子育て

未来を担う子ども達を地域で育む世田谷へ

待機児童の問題をはじめとする環境的・経済的な「子育ての壁」を取り除き、「出産しやすい・子育てしやすい世田谷」を目指して活動して参ります。また、所得格差による教育格差の拡大も深刻です。格差是正のために地域教育の充実に取り組みます。

虐待防止、いじめや引きこもり対策として、地域の見守りのネットワークの構築とSNSの活用を進めます。

支え合い、暮らしやすく生き生きとした世田谷へ

高齢者・障がい者福祉を充実させるとともに、認知症予防や介護予防に力を入れ、地域で支え合い、いくつになっても生き生きと暮らせる「思いやりのあふれる世田谷」を目指します。

また、全国で年間約10万人の方が介護のために仕事を離職されている現状を考えると、働く世代の方にとっても介護予防は重要な課題です。こうした観点から、働く世代の方が安心して働ける環境づくりにも力を入れて取り組みます。



福祉

災害に強い安心・安全の世田谷へ

首都東京において30年以内に70%の確率で起こると言われる大地震。かつての阪神・淡路大震災で犠牲になられた方の88%は建物の倒壊や家具の転倒による圧死が原因でお亡くなりになられています。大地震に備え、建物の耐震化を進めるとともに、行政と地域の消防団・町会等との連携を強化することで地域防災力の向上を図り、「災害に強い世田谷」を目指します。



防災

一人ひとりに寄り添う区政を

日々の活動の中で、多くの方からご意見を頂きました。皆様から頂いた「声」を受け止められる政治を目指して活動して参ります。頂いたご意見を一部紹介します。

 **多様性を認め合う社会を目指して欲しい。**

LGBTをはじめ、国籍・年齢・障がいの有無等に関わらず、誰もが自分らしく暮らせる社会を目指します。多様性を認め、人権が尊重される社会の実現ために、理解促進を図る講座や教育、啓発活動を充実させます。

 **大地震がいつ起こるか不安です。**

大地震への備えは、耐震化を進めるだけでなく、避難場所（一時避難場所・広域避難場所・避難所）の確認や防災グッズの準備など、日頃から防災意識を高めておくことが重要です。学校や町会の連携を深め、地域防災力の向上を図ります。また、つるみけんごは災害時に地域の皆様の安全を守るべく、消防団の一員としても活動しています。

 **駐輪上が足りていないのでは？**

各地区の駐輪場の利用状況を見ながらさらに拡充と整備を進めていきます。

また、自転車マナーについても多くのご意見を頂いておりますので、交通事故をなくすためにも自転車マナーの普及に努めます。

 **障がい者雇用を増やして欲しい。**

世田谷区では平成30年9月に障がい者雇用率に誤算定があり、法定雇用率の2.50%を下回っていたことが発覚しました。この点の改善はもちろんのこと、障がいがあっても働きやすい環境の整備を進めます。

 **近所に図書館がないので増やして欲しい。**

世田谷区内において図書館が近くにない地域もあり、地域間で格差が生じています。「図書館カウンター」の増設、他自治体で取り組まれている「移動図書館」等あらゆる方法を検討し、本が身近にある世田谷を目指します。